



DIGITAL MULTITRACK RECORDER

 **D24**

V2.0追補版

本説明書はD24とRC-D24 をバージョン2.0にアップグレードする方法とその新しい機能、特長について記載します。

D24のアップグレード

D24のアップグレードを以下の手順で行います。必ず“ Ver. 2.00 DISK ”とラベルに記載されているMOディスクをお使いください。

- 1 D24の電源を切ります。
- 2 D24の電源を入れます。
- 3 MOディスク“ Ver. 2.00 DISK ”をD24に挿入します。
- 4 メッセージエリアの2段目に“ UNFORMATTED ”と表示されます。(約10秒程かかります) [UTILITY] ボタンを押します。
- 5 DATA/JOGダイヤルで“ UPDATE ”を選択し、[ENTER] ボタンを押します。
- 6 メッセージ“ UPDATE D24 ”が表示されます。[ENTER] ボタンを押します。

注意: このとき、絶対に[ENTER] ボタンを2度以上押さないでください。

約10秒程してメッセージ“ WAITING ”が表示されます。さらに約60秒程してメッセージ“ TURN OFF ”が点滅表示されます。アップグレードは完了しました。

注意: メッセージ“ TURN OFF ”が表示されるまでは絶対にD24の電源を切らないでください。

- 7 バージョンを確認するには、D24の電源を切り、[UTILITY] ボタンを押しながらD24の電源を入れます。バージョンが“ V1 200 ”のように表示されます。

RC-D24のアップグレード

D24のリモートコントローラーRC-D24のアップグレードを以下の手順で行います。必ず“ Ver. 2.00 DISK ”とラベルに記載されているMOディスクをお使いください。

- 1 D24の電源を切ります。
 - 2 RC-D24をD24に接続します。
 - 3 D24の電源を入れます。
 - 4 RC-D24の電源を入れます。
 - 5 RC-D24 のディスプレイに“ 00:00:00.00 ”と表示されているか確認します。
 - 6 MOディスク“ Ver. 2.00 DISK ”をD24に挿入します。
 - 7 メッセージエリアの2段目に“ UNFORMATTED ”と表示されます。(約10秒程かかります) [UTILITY] ボタンを押します。
 - 8 DATA/JOGダイヤルで“ UPDATE ”を選択し、[ENTER] ボタンを押します。
 - 9 メッセージ“ UPDATE-D24 ”が表示されます。DATA/JOGダイヤルで“ RCU ”を選択し、[ENTER] ボタンを押します。
メッセージ“ WAITING ”が表示されます。D24および、RC-D24のカウンター表示が“ 1/374 ”から“ 374/374 ”にカウントアップされます。このカウントアップは約120秒程かかります。さらに約20秒程してRC-D24の全てのトランスポートボタン([REW] [FF] [STOP] [PLAY] [REC])が点滅を始めます。アップグレードは完了しました。
- 注意: RC-D24のトランスポートボタンが点滅を始めるまでは絶対にD24およびRC-D24の電源を切らないでください。
- 10 バージョンを確認するには、D24の電源を切り、再度D24の電源を入れます。RC-D24の[RTN TO ZERO] ボタンを押しながらRC-D24の電源を入れます。RC-D24のバージョンが“ 200 xxxxxx ”のように表示されます。

シームレスパンチアウトのモニター音

パンチアウトポイントでモニター音が入力から再生にシームレスに切り替わります。
(以前はパンチアウトしたときにモニター音が一瞬途切れました。)

モニター音が途切れず同時にパンチアウトできるトラック数は下表のように録音媒体(MO、ハードディスク)、サンプリング周波数(48kHz、44.1kHz)、録音量子化ビット数(16ビット、20ビット、24ビット)によって制限されます。

媒体	サンプリング周波数	量子化ビット数	途切れずにパンチアウトできる 最大同時トラック数
MO	48kHz	24-bit	8
		20-bit	9
		16-bit	11
	44.1kHz	24-bit	9
		20-bit	10
		16-bit	12
ハードディスク	48kHz	24-bit	12
		20-bit	15
		16-bit	16
	44.1kHz	24-bit	15
		20-bit	16
		16-bit	16


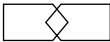

シームレスにパンチアウトできる最大トラック数は既に録音してあるトラック数(例えば再生トラック数)とパンチイン/アウト録音するトラック数の合計です。例えば、48kHz/24ビットのMOディスクの場合のシームレスでパンチアウトできる最大トラック数は8トラックです。もし4トラック既に録音済みなら、4トラックまでがシームレスにパンチアウトできます。

シームレスにパンチアウトできる最大同時トラック数を上回るトラック数を選択すると、モニター音が途切れます。ただしディスクに実際に録音されるオーディオデータはシームレス録音です。

クロスフェード・モード

パンチイン/アウト録音、パート編集に、任意にフェードタイムを設定できる2種類のクロスフェードモードが加わりました。以前はフェードイン/アウトタイムを設定してパンチイン/アウトポイントや編集ポイントでの移行部分をスムーズにしていた。この機能は再生音のみに影響し、フェードはディスクに録音されないのでフェードタイムをいつでも変更できるという利点があるため、そのまま残しました。しかし、新しいクロスフェードモードではフェードもディスクに録音されるので、いったん録音されるとフェードを変更することはできません。

以下の手順でフェードモードとフェードタイムを選択します。

1. [UTILITY]ボタンを押します。
UTILITYインジケータが点灯します。
 2. JOG/DATAダイヤルで“ FADE MODE ”を選択し[ENTER]ボタンを押します。
現在のモード設定が表示されます。
 3. JOG/DATAダイヤルでフェードモードを次の中から選択します。
 -  FADE IN/OUT 以前のバージョンと同様です。
 -  CROSS FADE1 クロスオーバーポイントで信号レベルが - 3dBとなります。音楽録音に適しています。
 -  CROSS FADE2 クロスオーバーポイントで信号レベルが - 6dBとなります。単音に近い素材の録音に適しています。
 4. [ENTER]ボタンを押して選択を確定するか[CANCEL]ボタンを押してフェードモード機能をキャンセルします。
 5. フェードタイムの設定は[UTILITY]ボタンを押し、JOG/DATAダイヤルで“ FADE I/O ”を選択し[ENTER]ボタンを押します。
現在のフェードタイム設定が表示されます。
 6. JOG/DATAダイヤルでフェードタイムを2、5、10、25、50、100msのいずれかを選択します。
初期設定は2msに設定されています。
 7. [ENTER]ボタンを押して選択内容を確定するか[CANCEL]を押してFADE I/Oモード機能をキャンセルします。
 8. [UTILITY]キーをもう一度押してユーティリティーモードを終了します。
UTILITYインジケータが消灯します。
- FADE I/Oモードで録音したプロジェクトを新しいクロスフェードモードのいずれかで再生すると、パンチイン/アウトポイントまたは編集ポイントでフェードイン/アウトせずに再生されてしまうので、必ずFADE I/Oモードを選択して再生してください。

A/B/IN/OUTポイントの削除

すでに設定したA/B/LAST REC IN/OUTポイントを削除できるようになりました。

1. [CANCEL]ボタンを押しながら[A][B][IN][OUT]のいずれかのキーを押します。

設定してあったポイントが削除されます。また該当するインジケータも消灯します。ロードしたディスクが書き込み保護されていないければ、ディスク上の該当するA、B、LAST REC IN、OUTポイントの情報も削除されます。

この機能はリモートコントローラーでも使用できます。

エディットタイムとしてのA/B/IN/OUTポイントの使用

パート編集機能、時間圧縮機能、ピッチチェンジ機能を使用中に、A、B、LAST REC IN、OUTポイントをスタートタイム(ST)、エンドタイム(ED)として簡単に使用できるようになりました。

1. ディスプレイに“ ST XXXXXXXX ”(例えば“ ST MARK IN ”)、または“ ED XXXXXXXX ”、または“ TO XXXXXXXX ”と表示されているとき、スタート/エンドタイムを[A][B][IN][OUT]のいずれかのキーを押して入力します。ポイント値が入力されて表示されます。そのポイントが設定されていないと、ポイント値は入力されません。

[SOLO/SELECT]ボタンを使用したトラックの選択

[SOLO/SELECT]ボタンを使用してトラックやパートの編集、時間圧縮機能、ピッチチェンジ機能でのソーストラック/デスティネーショントラックを選択できるようになりました。(以前はトラック選択はJOG/DATAダイヤルしかを使用できませんでした。)

1. ディスプレイに“ FROM TR ”や“ TO TR ”と表示されているときに[SOLO/SELECT]ボタンでソース/デスティネーショントラックを選択します。

JOG/DATAダイヤルと同様、使用中の機能によってトラックを個別(1~8)またはペアで(1/2、3/4、5/6、7/8)選択されます。

デスティネーションのバーチャルトラックの選択はJOG/DATAダイヤルを使用してください。

残り録音時間の確認

録音中でも残り録音時間の確認ができるようになりました。(以前はD24の停止中しかできませんでした。)

Apogee I/Oカード

D24はmini YGDAI I/Oカードシリーズに追加される、Apogee AP8AD、AP8DAのオプションカードに対応するようになります。(現在はAP8ADカードのみ使用可能)

[SOLO/SELECT]ボタンとテンキーを使用したバーチャルトラックの割り当て

バーチャルトラックをメイントラックに割り当てるとき、[SOLO/SELECT]ボタンでメイントラックが選択できます。(以前はSHUTTLE/CURSORリングしか使用できませんでした。)またテンキーでバーチャルトラックナンバーを選択できるようになりました。(以前はJOG/DATAダイヤルしか使用できませんでした。)

1. 本機が停止中に[V. TRACK SELECT]ボタンを押します。
V. TRACK SELECTインジケータが点灯します。

ディスプレイの1行目にメイントラックの番号1~8が表示されます。2行目にはそのメイントラックに割り当てられているバーチャルトラックが表示されます。初期設定では各メイントラックにそれぞれのバーチャルトラック1が割り当てられています。
2. [SOLO/SELECT]ボタンまたはSHUTTLE/CURSORリングでメイントラックを選択します。

選択したメイントラックに割り当てられているバーチャルトラックの番号がディスプレイ2行目に点滅し、対応するSOLO/SELECTインジケータが点灯します。
3. テンキーまたはJOG/DATAダイヤルを使用してバーチャルトラックを割り当てます。
4. [ENTER]ボタンを押してバーチャルトラック設定を確定します。
“ FINISHED ”というメッセージが数秒間表示され、V. TRACK SELECTのインジケータが消灯します。

複数台のD24に反映される機能

複数台のD24を使ったシステムではマスターのD24の次の設定がスレーブ機器に反映されます。(以前は反映されませんでした。)

- ・ A、B、LAST REC IN、OUTポイントの設定
- ・ A、B、LAST REC IN、OUTポイントの削除
- ・ オートパンチイン/アウト録音でのLAST REC IN、OUTポイント
- ・ レベルメーターモードの設定(NORMAL、FINE)

上記の内容はレベルメーターモードの設定以外、リモートコントローラーでも設定できます。

テイク00の修正(FIX TAKE機能)

FIX TAKE機能を使用してオートパンチイン / アウト録音後に残したいテイクを選択するとき、オリジナルの素材(TAKE 00)を選択できるようになりました。(以前は TAKE 00を選択できなかったので、オリジナルの素材に戻したい場合はフィクスし、オートパンチ機能を終了してアンドゥ機能を使用することが必要でした。) 以前と同様、オリジナルの素材(TAKE 00)のテイク試聴はできます。

FIX TAKE機能はリモートコントローラー使用時や複数台のシステム時はないので、現状仕様と同じです。

リモートIDのコンフリクトメッセージ

複数台のシステムで複数のD24に同じリモートIDが指定されていると、[CHASE] ボタンを押したときに“ RMT ID ERROR ”というエラーメッセージが表示され、チェイスモードに入れません。



ヤマハ株式会社

PA・DMI事業部 PA営業部 ☎ 053-460-2455

〒430-8650 浜松市中沢町10-1